

フェアトレードプレミアムの有効活用 ～意思決定プロセスの視点から考える～

チーム：ハッピーターン
植松ゼミ



参考文献・ポスターはこちらから

フェアトレードとは

「貿易のしくみをより公平・公正にすることにより、特に開発途上国の小規模生産者や労働者が、自らの力で貧困から脱却し、地域社会や環境を守りながら、サステナブルな世界の実現を目指す取り組み」

- ◎最低価格の保証、生産者側・トレーダー側共にフェアトレード認証のための基準
- ◎国内の認証商品市場は拡大傾向、認証される生産者組織も増加傾向

フェアトレードプレミアムとは

フェアトレード認証を受けた生産者に対して、商品の買取価格とは別に支払われる「奨励金」で、組合や地域の経済的・社会的・環境的開発のために使われることが期待される

- あるバナナ生産者組合に支給されるプレミアムは販売価格45.35\$に対して、1.75\$の約**3.9%**
- ◎フェアトレードの市場拡大に伴い、生産者が受け取るプレミアムも増加傾向
- ◎平均すると一つの生産者組織あたり年間約11万ユーロのプレミアムを受け取っている

事例①

ペルー
カカオ・コーヒー生産者組合

生産設備への投資

- ・加工施設の整備
- ・インフラ設備の購入



フェアトレードへの投資

- ・認証のためのコスト

事例②

ペルー
バナナ生産者組合

組合員とその家族へのサービス

- ・労働者とその家族の保険
- ・労働者とその家族向けの医療機械の購入
- ・退職金



事例③

ケニア
花農園組合

福祉

- ・託児所の建設
- ・診療所の建設
- ・保健センターへのX線装置の寄贈



教育

- ・奨学金
- ・学校設備
(教室、実験室、パソコン等)

事例④

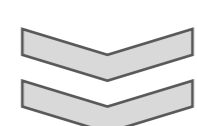
コートジボワール
カカオ生産者組合

ビジネストレーニング

= 生産者がカカオ生産だけでなく、売買や交渉の過程等で必要なビジネススキルを身につけるための研修



「プレミアムの利用方法にこのような違いが生まれるのはなぜか？」



◎生産者が得たフェアトレードプレミアムは一度生産者組合に集約され、利用方法は各組合で決定される

「プレミアムの利用に関する意思決定プロセスの違い」に着目！

意思決定プロセスは以下の2種類に大別することができることが明らかに

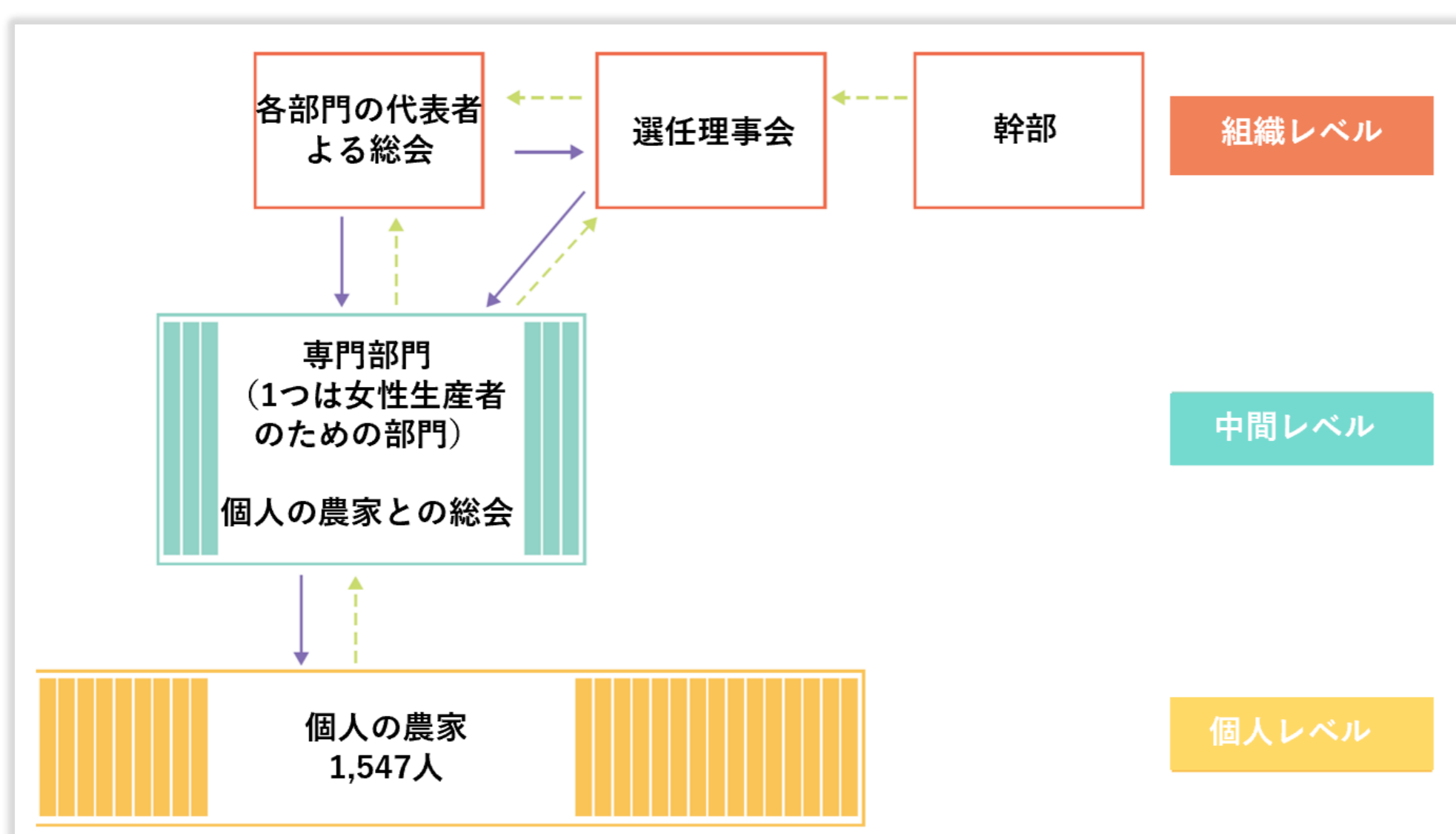
組み込まれた意思決定プロセス

分離された意思決定プロセス

組み込まれた意思決定プロセス

意思決定の過程でプレミアムをその他の予算と区別せずに利用方法を決定する

(「プレミアム」という認識より、予算の一つとしての認識が強い)

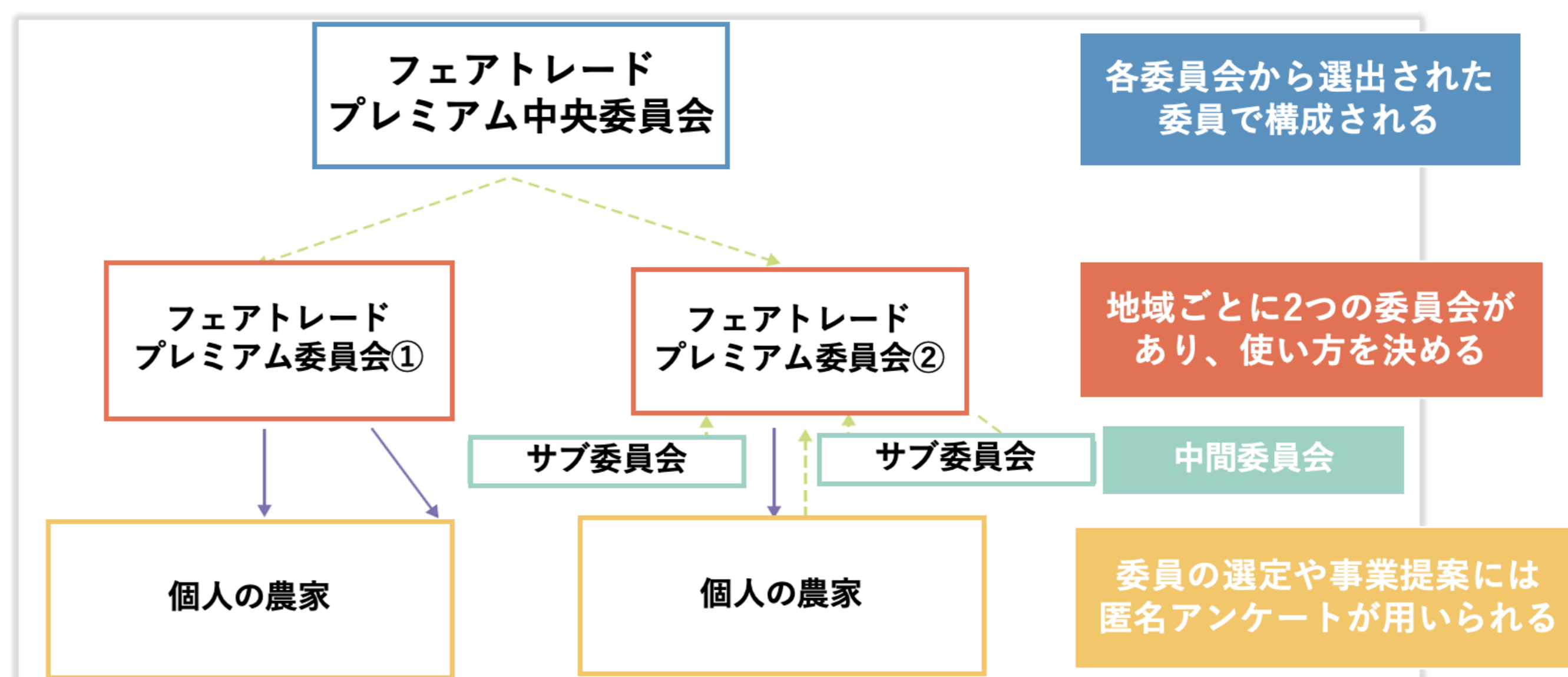


事例①②のように、生産過程、生産者組合、組合員と直接関係のある事柄に使われる傾向がある。

= **フェアトレード、生産者組合自体の発展を重要視**

分離された意思決定プロセス

意思決定の過程でプレミアムをその他の予算と区別して考え、「プレミアム」としての利用方法を決定する



事例③④のように、教育や福祉分野など社会全体の発展につながる事柄に使われる傾向がある。

= **地域全体の発展を重要視**

結論

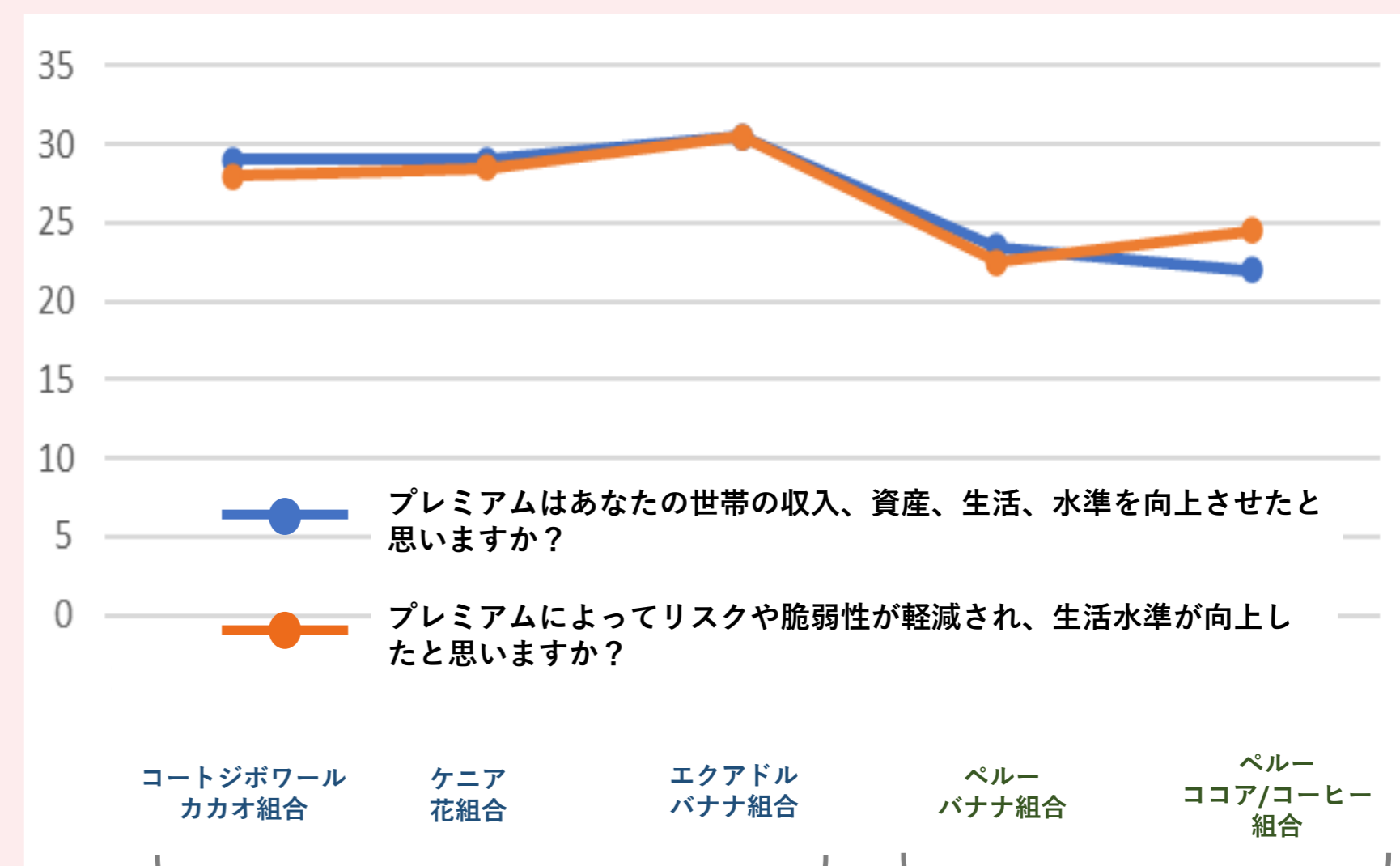
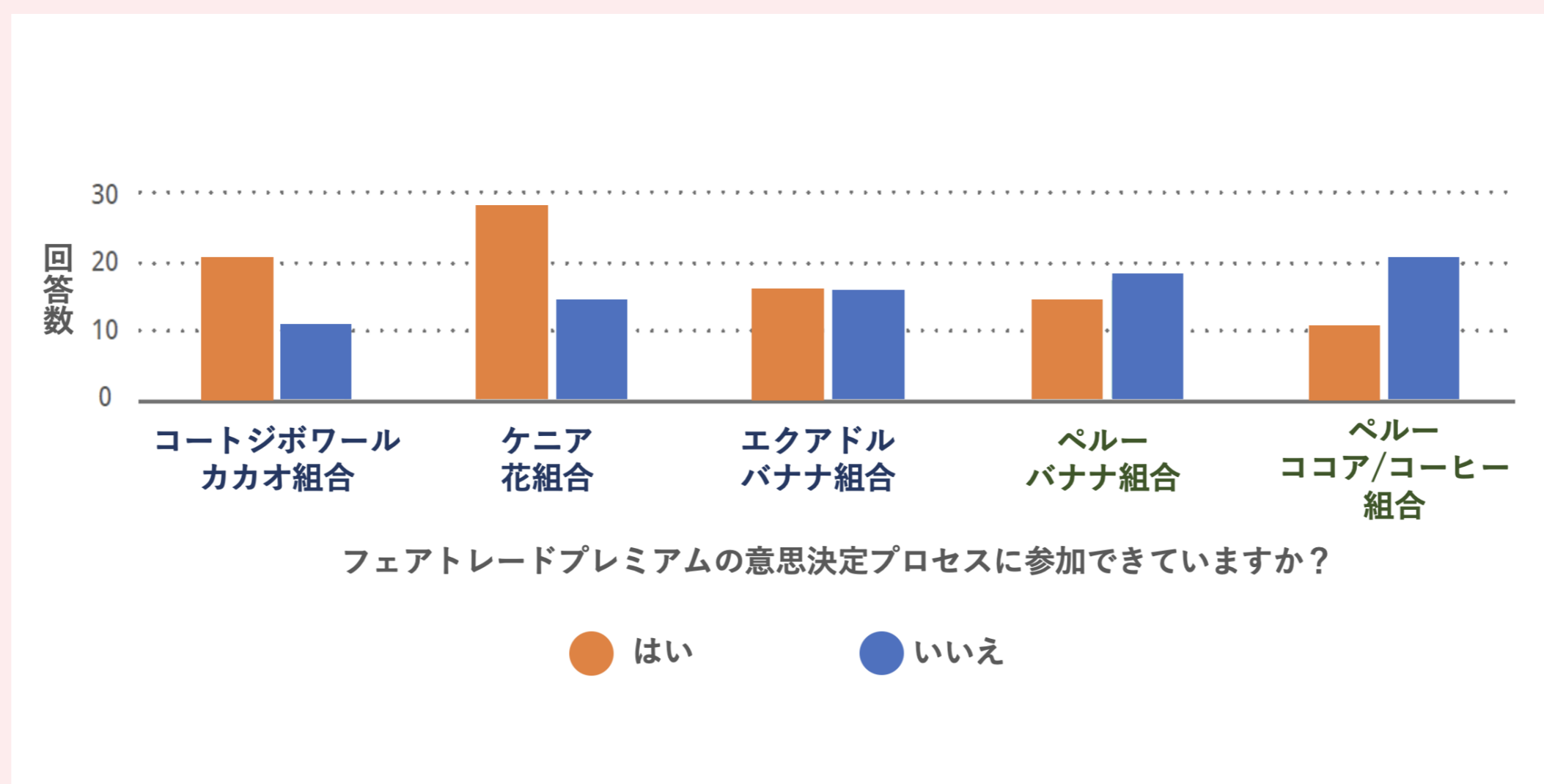
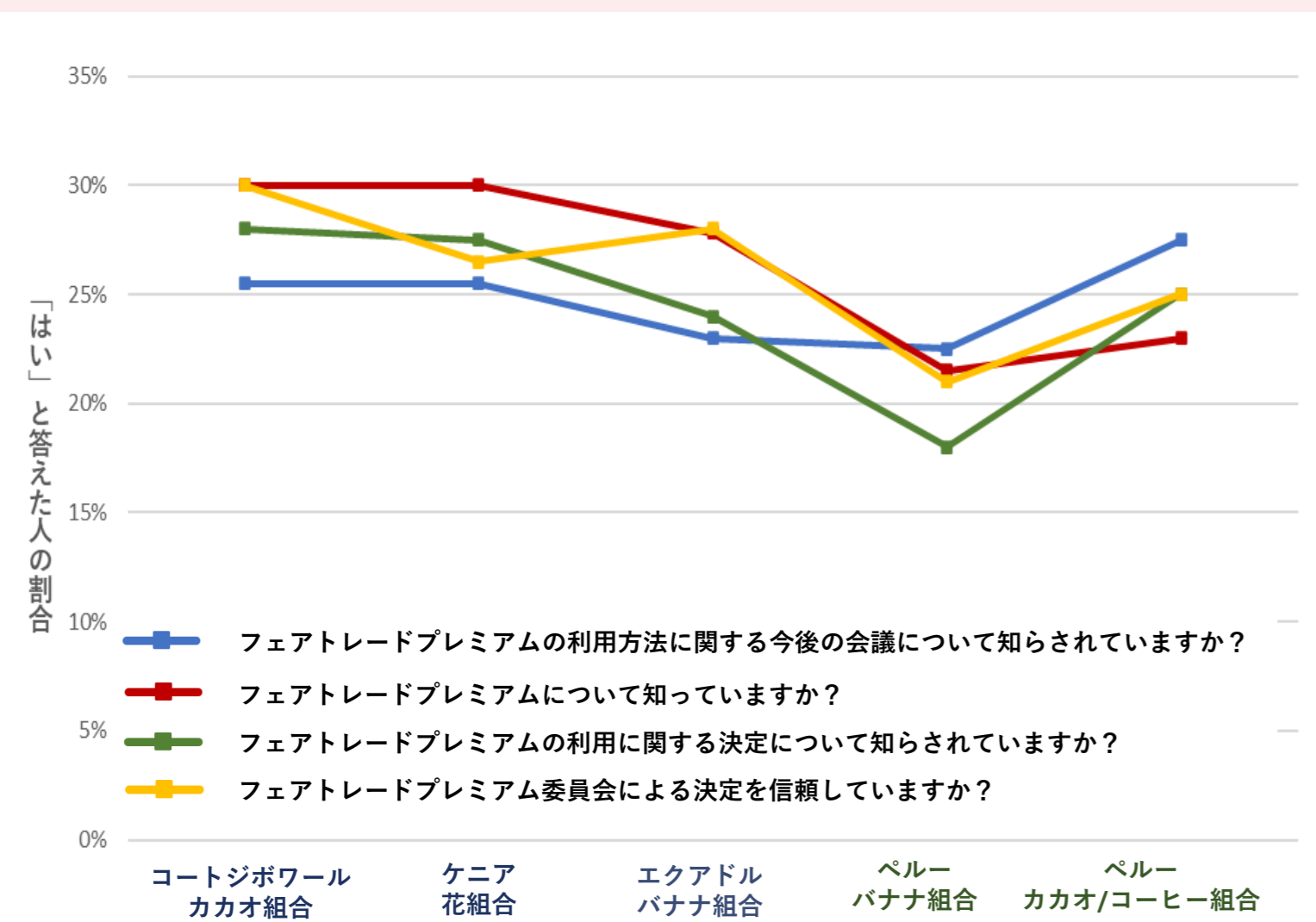
「分離された意思決定プロセス」によってプレミアムの利用方法を定める方が〜〜〜

その理由

①より多くの人々がプレミアムの存在を認識し、その利用について意識することが出来る

②意思決定プロセスへの参加者がより多い

③生産者や労働者だけでなく、より多くのコミュニティの構成員にとっての利益となる分野に使われやすい



±α プレミアムそれ自体の利用方法が明らかになりやすいという特徴
→ 利用方法に関する情報が消費者にもっと届くようになれば、消費者のフェアトレード商品に対する購買意欲が高まる可能性

⇒ 一人一人の意見が届きやすくなる

分離された意思決定プロセス

組み込まれた意思決定プロセス